

I 科目登録について

(1) 必修講義と選択演習について

「科目登録の手引き」を熟読し、単位不足のないよう履修計画を立てること。必修講義（6科目）はすべて履修しなければならない科目です。とりこぼしのないようにしてください。選択演習は「重複履修」が可能。同じ科目を次の年度にも履修することができ、卒業単位として加算されます。

(2) 授業形態の多様化に伴う注意事項

2020年度は感染症対策としてオンライン授業がおこなわれましたが、2021年度は、現在のところ、多くの授業が対面でおこなわれる予定です。しかし、2021年度も引き続きオンライン授業をおこなう教員もいます。フルオンデマンド形式あるいは一部オンデマンド形式（対面授業との組み合わせ）の授業については、各自、空いた時間に受講することができますが、リアルタイム形式の授業については、とくに自宅でリアルタイム授業を受講する場合、その前後の対面授業を受講するために、自宅とキャンパスとの間の移動時間を確保する必要があります。移動時間を確保できるように十分に注意して、履修計画を立ててください。哲学コースのリアルタイム授業は以下のとおりです。

〈2021年度 哲学コース リアルタイム授業〉

| | | |
|---------------------|-----|-------|
| 哲学専門講義1（ドイツ哲学／現代哲学） | 春学期 | 火曜4時限 |
| 哲学演習1（ドイツ哲学／現代哲学） | 春学期 | 火曜3時限 |
| 哲学演習8（ドイツ哲学／現代哲学） | 秋学期 | 火曜3時限 |

II 卒論計画について（新3年次生）

3年次の9月に、卒論の仮題目と研究計画、指導教員の希望（第一希望と第二希望を記入する）を提出し、11月に教員による仮指導がおこなわれます。9月までに指導希望教員・仮題目・研究計画をしっかりと考えておいてください。指導教員の希望（とくに第一希望）については、卒論の研究内容と指導希望教員の専門領域とが一致するようにしてください。自身の研究内容が領域の点で限定的でない（広く扱うなど）場合は、研究内容の中心的な部分がどの専門領域に属するかを考慮して、希望を提出してください。この希望に基づいて仮指導教員が決定され、仮指導で研究計画の確認などがおこなわれます。基本的に、仮指導をおこなった教員が指導教員になりますが、仮指導の結果、他の教員の指導をすすめられる場合もあります。この場合は、当該教員と面談し、学生と相談の上、指導教員を決めることとなります。指導教員決定の手続きにそなえて、3年次の春学期のうちに、哲学コースの各教員がどのようなテーマを研究しているのか、どのようなテーマなら研究ができそうなのかについて調査し、必要な場合はLA（哲学学修支援室）に相談することをおすすめします。

III 大学院科目先取り履修について（新4年次生）

4年次より大学院の授業を先取り履修することができるようになります（一定の条件を満たす必要があります）。大学院進学を希望する学生等は、指導教員と相談し、先取り履修を検討してみてください。

IV 語学学習について

哲学コースでは、哲学書を原典で読むために、ギリシア語、ラテン語、アラビア語、ドイツ語、フランス語といった言語の履修を強く推奨しています。哲学の勉強をする中で、2年次までに習得していない言語を学ぶ必要も出てくると思います。3年生・4年生からでも新しい語学を学ぶのに遅いことはありません。初級の授業を履修するなどして、必要な言語や興味のある言語を習得してください。半年くらいで学べる速習コースもあります。

V LAについて

哲学の学びのサポートのために、哲学学修支援室（LA）という仕組みがあります。哲学の学習法や、おすすめの入門書、レポートの書き方、（いまさら聞けない？）初歩的な質問などなどについて、大学院生が答えてくれます。詳しい曜日と時間帯は哲学コースのホームページに近日中に記載予定。場所は33号館5階501です。

VI その他

- ・哲学コースのホームページについて (<http://www.waseda.jp/philosophy/>)

お知らせや催し物の告知、LA情報などを掲載しています。定期的に確認してください。

- ・読書会について

学生が主体になって読書会を積極的に開催してください。新しく読書会を始めたいが、どのような本を読書会の題材に選んだらよいか分からない場合は、助手が相談にのります。

- ・Waseda メールをこまめにチェックする習慣をつけること。教員や事務所とのやり取りは基本的にWaseda メールでおこないます。普段Gmail等を使っている場合は、Waseda メールからGmail等への転送設定ができるのでおすすめ。

- ・早稲田大学哲学会機関誌『フィロソフィア』最新号を希望者には哲学コース室にて配布しています。
- ・助手の連絡先

児玉一嶺 tikizyouzi3@aoni.waseda.jp

卒業論文の指導を受けることのできる教員の一覧



早稲田大学 文学学術院
Faculty of Letters, Arts and Sciences, Waseda University

- トップ
- 時間割
- 読書会
- 早大哲学会
- 機関誌
- 卒業論文
- 学位論文
- 奨学金
- 教員紹介

教員紹介

哲学コース専任教員

| 教員名 | 専門分野 | 研究室 |
|------------|---------------------------------------|---------|
| 岩田 圭一 教授 | 西洋古代哲学 | 33-1315 |
| 鹿島 徹 教授 | 哲学 | 33-1314 |
| 小島 雅春 教授 | 英米系近現代哲学 | 33-1308 |
| 小林 信之 教授 | 美学、感性文化研究、現代哲学 (ハイデガー研究、近代日本の文化哲学) | 33-1510 |
| 小村 優太 専任講師 | 中世アラビア哲学、宗教哲学、比較思想、思想史 | 33-1303 |
| 西山 達也 教授 | フランス近現代哲学 | 33-1310 |
| 御子柴善之 教授 | カントを中心としたドイツ近現代哲学、倫理学 | 33-1313 |
| 村松 聡 教授 | 近現代哲学、応用倫理学 | 33-1302 |

RETURN TO TOP

文学部ホームページ
MYWASEDA
マイワセダ
WASEDA University
交通アクセス

哲学コース室

- ◆開室時間
月曜日13時～16時
- ◆お問い合わせ
TEL 03-5286-3636
(内線：72-3885)
助手：児玉一嶺
tikizyouzi3@aoni.waseda.jp
- ◆場所
〒162-8644
東京都新宿区戸山1-24-1
戸山キャンパス33号館502
- ◆[コース室利用予定表・使用届](#)

この教員紹介は2021年2月現在のものです。小島先生は2021年3月をもってご退職になります。2021年4月に、英米哲学がご専門の伊藤遼先生が着任される予定です。

教員からのメッセージ（御子柴 善之）

哲学コース3年以上に進級されたみなさん、順調に哲学の学びを継続されているでしょうか。いやいや、とても順調とは言えません、と嘆いている方もいらっしゃると思います。私もみなさんと同じころ、そんな気持ちをもっていました。一方で、必要な語学の習得に時間をとられ、他方で、読みたいもの・読むべきものは途方もなくたくさんあり、これでなにかを学べているのだろうか、と。

そんな救いのない気持ちをいくらかでも軽減できる方法として、次のものが考えられると思います。それは歴史上、どのような哲学が打ち立てられてきたかを、ソクラテス以前の哲学者から20世紀の哲学者まで俯瞰するような、新書版くらいの書物を通読しつつ（これは必ず通読しましょう）、そのなかで特定の哲学者との人格的な「出会い」を待つという方法です。これは、さまざまに問題含みの現代社会で哲学する方法としては、いかにも遠回りのように見えますが、そうとばかりも言えません。現代に生きるみなさんが「出会う」相手が、古代の哲学者であろうと近代の哲学者であろうと、その出会いは現代的なものだからです。現代を生きているみなさんの哲学する衝動がその出会いを準備しているのです。

私の大学院の研究室ではドイツ近現代哲学を研究する人が多いのですが、国際基督教大学の大学院で英語圏の近代哲学を研究している研究室と、毎年、研究交流のための研究発表会を開催しています。これは実に新鮮な体験で、哲学する展望を毎回のようには拡張してくれます。哲学する「出会い」は広がるばかりです。しかし、それは未完成を嘆くようなものとは正反対に、ある種のよろこびを昂進させてくれるものです。みなさんの2021年度が哲学するよろこびと共にあることを期待しています。

教員からのメッセージ（西山 達也）

私の専門演習や卒論演習ではフランスを中心とする現代哲学・現代思想を幅広く学んでいます。「フランスを中心とする」、と書いたのは、現代においては「フランス哲学」が単体では成り立ちえず、一方でドイツ哲学、他方で英語圏の哲学と、密接に関わっているからです。実際、私の卒論演習では、レヴィナス、デリダ、ドゥルーズといった現代フランスの哲学者についてだけでなく、フッサールやハイデガーについて、あるいは言語学、精神分析、文化人類学といった多岐にわたる分野に関して、演習参加者同士で対話し、切磋琢磨をしています。また、今年度の私の専門演習では、メルロ=ポンティの「人間の科学と現象学」というテキストを読む予定です（『メルロ=ポンティ・コレクション 第1巻』所収、みすず書房）。現象学の領域について学ぶだけでなく、人間の科学（すなわち人文学）とは何であるのか、そして哲学は人間について何を語りうるのかを、共に考えていきたいと思っています。フランス語の原典と日本語訳の両方を用いながら授業を進めますが、フランス哲学や現象学に興味があるけれどフランス語未習だという人も履修できるようになっています。皆さんと授業やキャンパスでお会いできることを楽しみにしています。

教員からのメッセージ（岩田 圭一）

新3年生以上の皆さんは、自分がどの時代の哲学、あるいはどのような哲学の諸問題に関心があるか、そろそろ方向性が見えてきたころではないかと思います。どの時代の、どのような哲学に関心があるにせよ、哲学の始まりである古代ギリシア哲学には必ず触れてもらいたいと思います。西洋の哲学者たちはみな古代ギリシア哲学に対して何らかの態度表明を行っています。皆さんも、プラトンの対話篇やアリストテレスの著作を手にとって、自身の思索の糧にしたり、踏み台にしたりしてほしいと思います。

私の専門領域は古代ギリシア哲学です。皆さんには、哲学コースの学生の教養として、ぜひ古典ギリシア語を学んでもらいたいと思います。ハイデガーはその主著の巻頭にプラトン『ソフィスト』の

一節を掲げています。そしてその思索は、ギリシア哲学に見られるさまざまな概念を独自の仕方解釈することを重要な契機としています。現代哲学に関心がある人にこそギリシア語を学んでもらいたいと思います。初級の授業としては、「初級ギリシャ語1」（春学期）・「初級ギリシャ語2」（秋学期）と、「初級ギリシャ語（速修）」（春学期、週2回）があります。1学期で集中的に勉強して文法を習得したい人は「初級ギリシャ語（速修）」を、じっくり学びたい人は「初級ギリシャ語1」・「初級ギリシャ語2」を履修してください。初級を終えたら、中級や講読の授業がありますので、読解力を身につけるためにこれらの授業を履修することをお勧めします（科目の構成については文学部HPの科目登録ページにある「古典語学習について」をご覧ください）。私が学生だったころと比べると、残念ながら講読の授業は少なくなりました。講読の授業が少ないと感じている4年生のギリシア語既修者は、大学院の「ギリシャ語1」（春学期）・「ギリシャ語2」（秋学期）の先取り履修という選択肢があります。ぜひ履修を考えてみてください。

ギリシア語の知識を身につければ、プラトンやアリストテレス、さらにはヘレニズム・ローマ期の哲学者のテキストを原文で読むことができますようになります。古代哲学には、多様な解釈が可能なテキストを解読するような楽しさがあります。一人でも多くの方がギリシア語を習得してくれることを期待しています。

卒論指導に関してですが、古代哲学全般（初期自然哲学からヘレニズム・ローマ期の哲学まで）を対象に指導しています。古代哲学との関連性がある場合、他の時代の哲学や現代的な関心のテーマの卒論も担当することがあります。なお、古典ギリシア語の知識がなくても古代哲学について卒論を書くことは可能です（私が担当する授業も同様にギリシア語の知識を前提にはしていません）。

ギリシア語学習や卒論指導について質問等がある場合は、授業の際やMoodleの機能を使ってお尋ねください。

哲学コース教員推薦書一覧

編集：哲学コース室

以下の参考文献表は哲学コース専任教員に対しておこなったアンケートの回答に基づいて作成した。挙げていただくようお願いしたのは次のA、Bそれぞれにつき5冊以内。

- A……哲学史・概説・入門
- B……一次文献（翻訳）

岩田 圭一

A

1. 加藤信朗『ギリシア哲学史』東京大学出版会、1996年
古代ギリシア哲学の成立から古代末期の哲学まで取り上げた書。ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学について詳しい論述が行われている。
2. 岩田靖夫『ギリシア哲学入門』ちくま新書、2011年
人はいかに生きるべきかという問題意識のもと、ソクラテス、プラトン、アリストテレスの哲学を取り上げ、戦争や宗教についても考察した入門書。
3. 廣川洋一『ソクラテス以前の哲学者』講談社学術文庫、1997年
ソクラテス以前の哲学者の思想を取り上げ、その意義を明らかにした書。
4. 藤沢令夫『プラトンの哲学』岩波新書、1998年
イデア論を中心とするプラトン哲学についてわかりやすく論じ、その現代的意義を明らかにした書。プラトン哲学の基礎であるソクラテスの思想も取り上げられている。
5. 山口義久『アリストテレス入門』ちくま新書、2001年
アリストテレスの論理学、自然学、形而上学、倫理学などを取り上げ、アリストテレスの思考方法を明らかにした入門書。

B

1. プラトン『ソクラテスの弁明』三嶋輝夫訳、講談社学術文庫／納富信留訳、光文社古典新訳文庫
プラトンの初期対話篇の一つで、ソクラテスが法廷で自身の哲学と生き方について語る様子を描いた書。多数の邦訳があるが、ここに挙げた二つの訳は、文庫で手に入る比較的新しい邦訳である。
2. プラトン『パイドン』岩田靖夫訳、岩波文庫
プラトンの中期対話篇の一つで、魂の不死を主題とした書。想起説やイデア論など、プラトン哲学の基本的な学説が示されている。
3. プラトン『国家』藤沢令夫訳、岩波文庫
中期対話篇に分類されるプラトンの主著。正義が主題であり、魂の三部分説や哲人王思想、善のイデアに関する説明など、重要な学説が示されている。
4. アリストテレス『形而上学』岩崎勉訳、講談社学術文庫／出隆訳、岩波文庫
アリストテレスの主著。感覚的事物の原理・原因だけでなく、万物の究極的な原理・原因である神も対象として、存在の問題について論じている。一般的な形而上学に神学という部門的な学が組み込まれる点が興味深い。
5. アリストテレス『ニコマコス倫理学』高田三郎訳、岩波文庫
善く生きることを目指したソクラテスの精神を受け継ぎ、「幸福」、「徳（卓越性）」、「快樂」、「友愛」などについて論じた書。

鹿島 徹

現代日本社会の制度化された「哲学」なるものに疑問を感じる者として、推薦本を挙げる事など、なまなかにはできません。代えて、この数年のあいだに（再び）読んで、「哲学」と現代社会をめぐるさまざまな問題を考えるために「重要だ」と思った書物を、10冊挙げさせていただきます。

二階堂奥歯『八本脚の蝶』（ポプラ社、2006年）

文学部哲学専修出身の、若くして自死した女性編集者の手記。ネットでも読めるが、単行本の追悼文に注目

植谷雄高『不合理ゆえに吾信ず』（1950年、現代思想社）

「私は私だとは不快だ」という根本気分から、独特の存在論を立ち上げるアフォリズム集

ベンヤミン「歴史の概念について」（1940年）『【新訳・評注】歴史の概念について』鹿島訳・評注、未来社

従来の歴史概念を覆し、危機の瞬間に閃く過去のイメージの確保へと道を開く

ハイデガー『存在と時間』（1927年）高田珠樹訳（作品社）、細谷貞雄訳（ちくま文庫）、熊野純彦訳（岩波文庫）

2000年に及ぶ哲学の通念・常識をひっくり返す思想革命の書。ドイツ語原文でしか十分な読み取りはできないが、翻訳を使う場合には複数を併読しながら内容理解を深めるのがいいと思う。

白川静『孔子伝』（1972年、中公文庫）

被差別階層を出自とする思想家の、革命思想から巻懐の境地への道を描く

網野善彦『無縁・公界・楽』(1979年、平凡社ライブラリー)

日本史の史料のなかから、真の自由としての「無縁」という概念を掘り起こす歴史書=思想書
辻潤『絶望の書・ですべら』(講談社文芸文庫)

大逆事件から敗戦までを文筆・門付で飄然と生きた崎人の雑文集

山崎朋子『サンダカン八番娼館』(初版1975年、文春文庫)

貧困ゆえに海外で春を鬻いだ戦前女性に密着取材した驚きのドキュメンタリー

山本義隆『私の1960年代』(金曜日、2015年)

『荒木経惟写真全集』第3巻『陽子』(平凡社、1996年)

小林 信之

A

1. 山崎正和編『近代の藝術論』(中公・世界の名著81)中央公論社、1979年

近代の代表的な芸術論を収めるとともに、簡潔な解説が付されている。

2. 中井正一『美学入門』中央公論社(中公文庫)、2010年

美や創造性の問題をわかりやすくまとめている。随所に著者独自の着眼点が光る。

3. マルティン・ハイデガー『ニーチェ I』白水社、2007年

美的なものをめぐる哲学の歴史を、あくまでハイデガーの視点から「概観」することができる。ニュートラルな概論や歴史書などない。

4. オスカー・ベッカー『美のはかなさと芸術家の冒険性』理想社、1964年

小論ながら、美的なものに関する鋭い洞察をふくんでいる。よき導入の書。

5. エルヴィン・パノフスキー『イデア』平凡社(平凡社ライブラリー504)、2004年

美的なものの歴史をイデアの変転という観点から俯瞰した古典的論考。

B

1. イマヌエル・カント『判断力批判』(世界の思想・第11巻『カント〔下巻〕実践理性批判・判断力批判/永遠平和のために』所収)河出書房新社、1965年

美や芸術の問題を考えるとき、出発点となる書物である。他にも翻訳があるが、基礎的訳語の選択から判断して、本書を推薦しておく。

2. フリードリヒ・ニーチェ『悲劇の誕生』(世界の名著・第57巻『ニーチェ ツァラトゥストラ・悲劇の誕生』所収)中央公論社、1978年

ニーチェが現代哲学におよぼした影響は測りしれない。若き哲学者の原点をなす書。

3. マルティン・ハイデgger『杣道』(ハイデgger全集 第5巻)創文社、1988年

1930年代のハイデggerの思想を集約した論文集で、「芸術作品の起源」「世界像の時代」「何のための詩人たちか」等をふくんでいる。

4. 西田幾多郎『西田幾多郎哲学論集3』、岩波書店(岩波文庫)、1989年

「自覚について」「歴史的形成作用としての芸術的創作」などをふくむ論文集。晩年の西田哲学のエッセンスを味わうことができる。

5. 九鬼周造『〈いき〉の構造』講談社(講談社学術文庫)、2003年

日本の美学を語るときに欠くことのできない小著。詳細な注釈をふくむ。

小村 優太

A

1. 井筒俊彦『イスラーム哲学の源像』岩波新書

後期井筒の例に漏れず講演録なので読みやすい。題名に反してその実「イスラーム神秘主義の源像」であることに注意が必要だが、深い洞察に満ちている。

2. 『新プラトン主義を学ぶ人のために』世界思想社

古代から近代に至るまでの新プラトン主義の展開、影響を概観する。新プラトン主義は西洋哲学の「裏テーマ」と言っても過言ではない。

3. 『中世の哲学 ケンブリッジ・コンパニオン』京都大学学術出版会

原著は定評のあるケンブリッジ・コンパニオン・シリーズ。人物ではなくテーマごとに章立てされており、それぞれ第一線の研究者が執筆している。

4. リチャード・E・ルーベンスタイン『中世の覚醒』ちくま学芸文庫

中世哲学の概観が見通せる通史。物語風の記述であり、「読ませる」文章である。

5. 山内志朗『普遍論争』平凡社ライブラリー

一見すると平易な語り口だが、内容はハード。名前は聞いたことのある「普遍論争」の概略を学ぶにはこの本以外にない。

B

1. 『中世思想原典集成』平凡社

全20巻にも及ぶ膨大なシリーズ。日本における中世研究の精華。第11巻『イスラーム哲学』所収の論考の多

くはここでしか読めない。現在『精選』全7巻が平凡社ライブラリーから刊行中であるが、選外の論考も多い(『イスラーム哲学』の巻からは2篇のみ)。

2. プロティノス『エンネアデス 抄』中公クラシックス
新プラトン主義の創設者プロティノスの唯一の著作。中公クラシックス版は抄訳の全2巻。まずはこれを読めばプロティノス思想の概略をつかむことができる。
3. トマス・アクィナス『神学大全』中公クラシックス
中世哲学の王道。中公クラシックス版はごく序盤のみの抄訳の全2巻。独特の形式が一見とつきにくい、慣れると非常に読みやすい。全訳は創文社刊(品切多)。
4. アリストテレス『魂について』京都大学学術出版会/岩波書店など
現代ではあまり読まれないが、後期古代から中世において、哲学は『形而上学』と『魂について』を中心に回っていた。ここから生まれた「能動知性」論は一大テーマである。
5. ガザーリー『哲学者の自己矛盾』平凡社東洋文庫
中世イスラームの神学者ガザーリーによる哲学者批判の書。主にアヴィセンナとファーラービーが標的にされた。アヴェロエスはこれに対して『矛盾の矛盾』で論駁する。

西山 達也

A

1. 小林道夫・小林康夫・坂部恵・松永澄夫編『フランス哲学・思想事典』弘文堂
フランス哲学を広範に網羅していることで定評のある事典。
2. 伊藤直樹・齋藤元紀・増田靖彦編『ヨーロッパ現代哲学への招待』梓出版社
現代ヨーロッパの代表的哲学者の思想とトピックを学ぶことができる概説書。
3. 戸島貴代志・本郷均『現代フランス哲学に学ぶ』放送大学教育振興会
ベルクソン・現象学・フーコー・リクールを中心にフランス現代哲学を時代順に解説している。
4. 坂部恵『仮面の解釈学』東京大学出版会(『坂部恵集3』岩波書店所収)
入門書・解説書と呼ばれる書物とは異なるアプローチでフランス哲学に入門できる貴重な一冊。
5. 熊野純彦『レヴィナス 移ろいゆくものへの視線』岩波現代文庫
レヴィナスの主要著作を読み解きながら、単なる専門研究書にとどまらない射程をもつ良書。

B

1. フッサール『デカルト的省察』岩波文庫
フッサール自身による現象学の概説に加えて、徹底的なデカルトとの対決を読むことができる。
2. レヴィナス『実存の発見』法政大学出版局
現象学運動の奥深さに触れながらレヴィナスという思想家の独自の世界を探索できる。
3. デリダ『有限責任会社』法政大学出版局
デリダとジョン・サールとの論争の書。デリダの思考のリズムと方法が凝縮されている。
4. ドゥルーズ『差異と反復』河出文庫
刊行後半世紀を経てようやくその可能性と肥沃さが明らかになりつつある古典的名著。
5. モンテーニュ『エッセー』岩波文庫、白水社、河出書房新社
デカルトやパスカルに影響を与えた近代哲学の祖が残した人間研究の宝庫。

御子柴 善之

A

1. 有福孝岳・牧野英二編『カントを学ぶ人のために』世界思想社、2012年
カント哲学のさまざまな側面(理論哲学、実践哲学、宗教哲学、歴史哲学、平和論など)に対して、周到な解説を加えた入門書。
2. 石川文康『カント入門』ちくま新書、1995年
独自の切り口から、カント哲学を親しみやすく解説している好著。同じ著者による入門書、『カントはこう考えた』(筑摩書房、1998年)もある。
3. H・M・バウムガルトナー『カント入門講義』法政大学出版局、1994年
カントの『純粋理性批判』の全体像をつかむには好適な書物。原語は平易なドイツ語で書かれている。翻訳にはいくぶん問題がある。
4. ブライアン・マギー『哲学者』(上・下)NHK出版
マギーの自伝でもあるが、彼の出会った人物(特にポパーやラッセル)の描き方が興味深い。「哲学する」ことを実感させてくれる好著。
5. 中島義道『悪について』岩波新書、2005年
カント倫理学を身体をもって生きる人間に即して語り抜いた好著。「悪」の観点から、教科書的なカント入門書とはまったく異なる展望をひらいている。

B

1. カント『道徳形而上学の基礎づけ』

カント倫理学が最初に提示された書。以文社から刊行されている宇都宮芳明訳がよい。

2. カント『**プロレゴメナ**』
カントの理論哲学を分かりやすく伝えてくれる書。実は論争的な書物でもある。「カント全集」に入っている久呉高之訳がよい。
3. フィヒテ『**浄福なる生への導き**』平凡社ライブラリー、2000年
これは、フィヒテの宗教哲学の書であり、またドイツ観念論の性格を明瞭に伝える書物でもある。大変平易な改訂・補訳が平凡社から刊行された。
4. ロールズ『**正義論**』改訂版、紀伊國屋書店、2010年
「正義」の古典としては、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』があるが、これは現代の古典とも言うべき著作。大著だが、怖がることなく読み始めたい。
5. ベンハビブ『**他者の権利—外国人・居留民・市民**』法政大学出版局、2006年
上記のロールズに対して、正義論に内在する立場から批判を加えた好著。カントの世界市民法の意義を理解するための手がかりにもなる。

村松 聡

A

1. 加藤尚武『**現代倫理学入門**』講談社学芸文庫
応用倫理学の分野では、シャープな議論展開といい、現実と哲学両方についての深い見識といい、現在日本の倫理学における第一人者である加藤尚武さんが一番いいものを書いています。
2. ハーストハウス『**徳倫理学について**』知泉書店、2014
ハーストハウスは教科書として考えたようだが、日本の教科書レベルで考えると間違える高度な内容。豊富な例で様々な問題を考えているので、これはお薦め。
3. 加藤尚武 / 飯田亘之『**バイオエシックスの基礎**』東海大出版会
1960～1980年代までの英米系の様々な生命倫理のテーマに関する論文を集めたアンソロジー。出版は古いが、英米系の議論を知るためには依然として必須文献。
4. ビーチャム / ボウイ『**企業倫理学1～4**』晃洋書房
企業倫理学について、テーマごとに章をもうけ、最初に争点、主要な主張を簡単に解説。その後、pro and contraの形をとりながら、主要論文を挙げ、事例を紹介。論争点、問題のありかを知るには格好の書。
5. J.R. ジャルダン『**環境倫理学 - 環境哲学入門**』人間の科学社、2001
環境倫理学を包括的に解説している非常に良質な文献。入門と書いているし、教科書の形をとっていますが、内容的には、かなりハイレベルなものを含む「教科書」。

B

1. ダニエル・ラッセル編『**ケンブリッジ・コンパニオン 徳倫理学**』春秋社、2015
コンパニオンとは、英米圏の哲学で、手引きのことで、多くの研究者の論考を、その分野を概観するために集めている論考集のこと。これは、ケンブリッジ出版から出しているこうしたコンパニオン。徳倫理を概観するためにはとてもよい。
2. ビーチャム/ チルドレス『**生命医学倫理**』第5版、麗澤大学出版会、2009年
生命倫理の分野で唯一、古典として誰もが認める本です。残念ながら、現在絶版状態。図書館で借ります。
3. メルロ・ポンティエ『**知覚の現象学**』みすず書房と法政大学出版局、2種類あり
メルロ・ポンティエの主著。「世界のうちに礎を降ろした」身体に着目して、人間存在を単なる意識でもなければ、単なる物質でもないもの、単に能動的でもなければ、単に受動的でもないもの、総じて「二義性」をもつ存在として特徴付けています。現象学の広がりや堪能しましょう。
4. シェーラー、**シェーラー著作集8巻「同情の本質と諸型式」**白水社
共感とは何か、同情とはどのような感情か、について、深く分析した哲学書。メルロ＝ポンティエなど多くの哲学者に影響を与えている。例も豊富に出ているので、食いつけないものではない。
5. ロック『**人間知性（悟性）論**』岩波文庫
現代パーソン論の出発点となった、第2巻27章の同一性の議論を読みましょう。ロックはパーソンの本質を記憶として特徴付けています。30頁ほどで、他から独立しても一応読めます。

2019年度 文学部哲学コース卒業論文題目一覧

| | |
|------------------------------|---|
| 痛みの表現にまつわる共感の力 | 中間領域としての独我論的世界 |
| ニコマコス倫理学における行為と徳について | アイデンティティについて |
| 『ニコマコス倫理学』における快樂を巡る様々な問題について | 共同感情について |
| エックハルトにおける似像と範型 | 虚構における非倫理的事象の在り方について |
| 監視社会の哲学 | ドゥルーズ『差異と反復』における個体化と個体について |
| 脚本と演出の関係性 | プラトンにおける知識とは何か |
| マッキンタイアの徳論について | 精神分析とフェミニズム |
| 時間について | ジャン＝リュック・ナンシーにおける存在論の基礎づけ |
| ソクラテス以前の哲学に対するプラトン思想の特異性 | 看護におけるケアリング |
| 言語にとって定型とは何か | 現象学的還元の始まり |
| 信仰と狂気 | ロラン・バルト「作品からテキストへ」における「容認可能な複数性」と「還元不可能な複数性」についての考察 |
| ニヒリズムと唯一者 | 哲学の対象について |
| マゾヒズムの要素について | 「意志の自由」の解明 |
| 音楽における時間の概念 | ニヒリズムと政治 |
| 『斜陽』にみる人生の諸相 | すべては〈旅〉である |
| ボーヴォワールとイリガライにおける「母」の比較 | 人はホラーに何を求めるか。 |
| ヒュームにおける道徳論への一批評 | 哲学と死 |
| 全般経済学の曖昧さと自己意識 | |
| ジョン・ロールズ『正義論』について | |
| ソシュールにおける言語の意味論について | |

2020年度 文学部哲学コース卒業論文題目一覧

| | |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 古代ギリシア哲学にみる本質とその直観 | ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』研究 |
| アリストテレス『形而上学』における「第一の不動の動者」 | ベルクソン哲学における笑いと現代のお笑いの関係性 |
| スマートフォンと写真 | 1940年代のエマニュエル・レヴィナスにおける現象学的存在論 |
| スピノザ『エチカ』における道徳性 | 社会的構築物としての性別カテゴリーの解体可能性 |
| エイヤーの検証可能性原理と倫理学説 | プラトンの政治哲学における国家と為政者 |
| ジョン・デューイの哲学思想 | |
| スピノザのコナトゥス論 | |
| 言葉以前の地平まで | |
| いかにして人は幸福となりえるか | |
| ハイデガー『形而上学入門』における「ポレモス」について | |
| 物理主義の可能性 | |
| サルトルの自由 | |
| ニーチェの生の肯定——芸術的存在を中心に | |
| スクリーンのなかの現代人 | |
| クンデラ作品における反抒情主義 | |
| コギトと思考可能性 | |
| 日本の死刑制度問題について | |
| 抑制のない行為はいかにして起こるか | |
| 家族の「愛」とは | |
| マーサ・ヌスバームの『感情』論 | |
| バタイユ研究 | |